

地域や学校で子どもたちに昔の遊びを教える「昔遊び指導者」として県知事の認証書を持つ林信明さんは、昨年から木曽三川公園アクアワールド水郷で、藤づるを使った工芸品作りの体験コーナー「森とあそぼう」の指導者をされています。



つる工芸の楽しさとは？

山へ藤づるを採りに行き、一

年ほど自然乾燥させたものを使います。つるにはいろいろな特性があり形をしています。自然が作り出したまがりくねった形

を生かして編んでいきます。どんなおもしろみが出るか、二つ



林 信明さん(70歳・本郷)

1本の”つる”から作るおもしろさ

ともないものをつくる楽しみがあります。藤づるの工芸を通じてどんなことを思いますか？

小さい頃山で遊んだ思い出があつて、退職してから始めたわけですが、自然の素材を使っていると森の豊かさを感じ

ることができません。昔の人の知恵にも触れることができる。そんな感覚を皆さんにも味わっていただきたいです。

自然とふれ合う体験を通して、昔の人の知恵を知ってもらい、自然を大切にしたいという気持ちを持っていただけたらと思います。

「ご主人が作られた器に花を植え、花がざりコンクールで賞に輝いた事もある奥様の林のしこさん。かごづくりにはいつも二人で出かけ、ご主人のそばで作業を手伝われま

す。」一本のつるでいるんなものができるおもしろさを味わってみたい方、連絡いただければお教えします」と林さん。お二人のおもしろい、やさしさがお話を伺う間も感じられました。



もえ 望愛ちゃん (上八幡) とっても大きな声のもえちゃん。これからも元気にすくすく育ってね！



まや 麻耶ちゃん (片山北) 二人のお兄ちゃんと元気良く遊んでいます。女の子らしく、やさしい子に育ってね。



りこ 莉子ちゃん (白鳥) いつも2人のお兄ちゃんに遊んでもらって楽しいね。優しい子になってね。



いつも楽しみにしながら読ませていただいています。もう少し、子どもたちの活動をしているサークルなどの紹介もしてください。

昔の事を口にするのと笑われる世ですが、年毎に部落の行事等が無くなっていく事、例えば15日の小正月の左義長のおかゆさん。山の神のもち搗き等、老人の楽しみが一つずつ消えていくのが淋しいですね。老いも若きも集まってワイワイ助け合う時代でなく、なんて言っても若い人には勝てませんが、お互いに助け合って家庭(族)から、たのしい世相にしたいものです。

高橋静香さん(片山・78歳)

いちご作り36年の終わり6月の台風でパイプハウス二棟こわけてしまいました。80歳までは(一反一畝)は続けようとお話し合っていたので残念です。主人も私もボケ防止にと37年目、少しですが生産に頑張っている今日この頃中です。

竹中正子さん(白鳥・76歳)